

平成 27 年 11 月 5 日

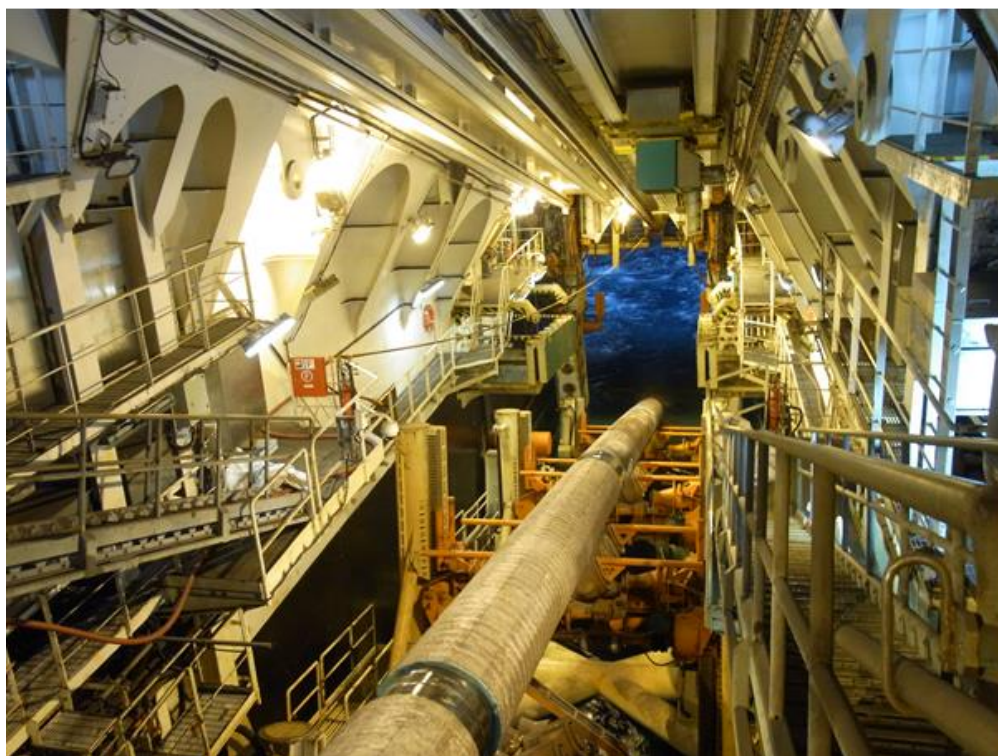
各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 橘高 公久
電話番号 03-5572-0233

オーストラリア イクシス LNG プロジェクト ガス輸送パイプラインの敷設作業の完了について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、オーストラリア連邦で操業主体（オペレーター）としてプロジェクトパートナーと共にイクシスLNGプロジェクト（以下、本プロジェクト）の開発作業を進めております。この度、安全を最優先に2014年6月より進めてきた西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田と北部準州に建設中の陸上ガス液化プラント（以下、LNGプラント）を結ぶ全長約890キロメートル、口径42インチ（約107センチメートル）のガス輸送パイプライン（以下、本パイプライン）の敷設作業が完了しましたので、お知らせいたします。

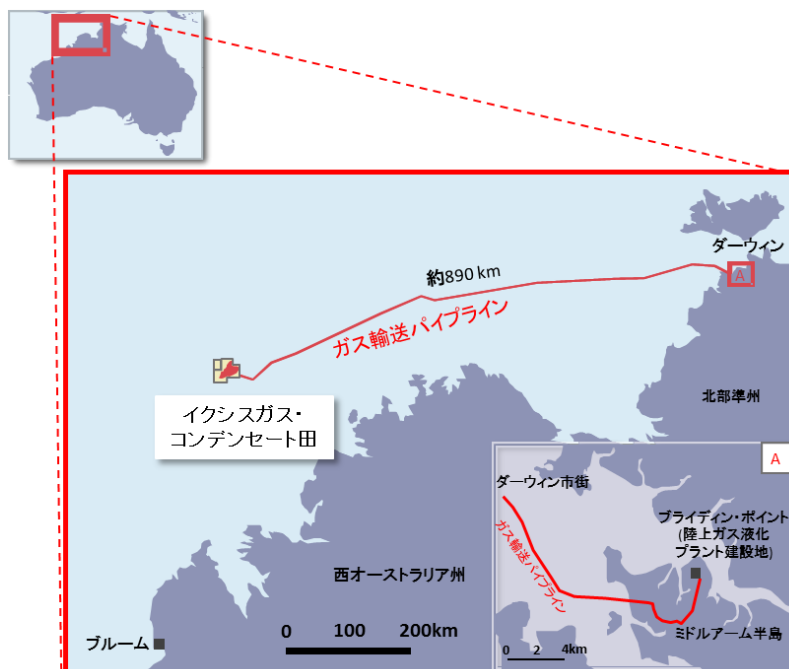
当社は、引き続き、耐圧試験など本パイプラインの供用に向けての各種作業を継続してまいります。



ガス輸送パイプライン敷設作業の様子

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION



ガス輸送パイプライン敷設マップ

本パイプラインは、本プロジェクトの稼働が見込まれる40年にわたって、西豪州沖合のイクシスガス・コンデンセート田に設置する「沖合生産・処理施設（以下、CPF：Central Processing Facility）において分離・処理されたガスをLNGプラントが建設されるダーウィンまで輸送する大動脈として機能し、本プロジェクトを支える重要施設の一つです。本パイプラインの敷設作業を無事終えたことで、当社は本プロジェクトの実現に向けた重要なマイルストーンを達成したと考えています。

当社は、本プロジェクトに関係する地域コミュニティの方々、連邦政府、西豪州政府及び北部準州政府等のオーストラリアの関係者やプロジェクト関係者の方々のご理解とご協力を得ながら、このプロジェクトの成功に向けて引き続きまい進する所存です。

以上

イクシス LNG プロジェクト

イクシスLNGプロジェクトは、当社が操業主体（オペレーター、参加権益比率：62.245%）としてトータル社（同：30%）、台湾中油（CPC、同：2.625%）、東京ガス（同：1.575%）、大阪ガス（同：1.2%）、関西電力（同：1.2%）、中部電力（同：0.735%）及び東邦ガス（同：0.42%）と共に、オーストラリア連邦西豪州沖合に位置するイクシスガス・コンデンセート田より産出される天然ガスを、オーストラリア連邦北部準州のダーウィンに建設する陸上ガス液化プラントにて液化し、年間約890万トンのLNG及び年間約160万トンのLPGとして生産・出荷すると共に、沖合生産・貯油出荷施設（FPSO）などから日量約10万バレル（ピーク時）のコンデンセートを生産・出荷する計画です。本プロジェクトは、40年という長期にわたって稼働が見込まれる世界的にも大規模なLNGプロジェクトです。当社は、1998年の公開入札により本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得、その後の探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発検討作業を経て2012年1月に最終投資決定しました。